

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600719		
法人名	医療法人 ニコニコ診療所		
事業所名	グループホームおさかの里 さくら館		
所在地	大分県豊後大野市三重町小坂4194-9		
自己評価作成日	令和3年1月15日	評価結果市町村受理日	令和3年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・医療と介護の連携が取れており、適切な医療が素早く受けられる。 ・口腔体操や簡単な体操を行いそれぞれの残存能力を活かした取り組みを行っている。 ・国家資格を持っているスタッフが多い。 ・ここ1年は難しいが、月1～2回のオレンジカフェに参加し地域との交流や気分転換の機会を設けている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・医療と介護の連携が取れており、適切な情報の提供ができています。 ・立地条件を活かして外気浴や、(コロナ禍のため)テラスからガラス越しの面会ができており、家族の安心につながっている ・職員が温和で 情報共有ができており、協力して利用者へ質の高い支援ができています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	数ヶ所に理念やモットーを掲示し毎日の朝礼で唱和して実践につなげられる様になっている。	理念・モットーは玄関及び事務室に掲示している。2ユニット合同で申し送りをする際、全員で「人としての尊厳を最後まで奪わない失わせない」という理念の唱和を行い、実践につなげている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	この1年はコロナ対策のため地域との交流は難しいがオレンジカフェを通して地域の方との交流を行っている	ボランティアの受け入れ、オレンジカフェの参加は中止しているが飾り物を届けてくれたり、カフェの職員からいろいろな情報の提供がある。また、地域の人が駐車場などに花を植えに来てくれたりしている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での健康教室や運営推進会議に資料を入れたり、ボランティア・サロンに来られた方に話をしたりして活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	実践について報告しヒヤリハット等でのアドバイスを活かしていけるように取り組んでいる。	実際に集まることは避けているので、委員には文書を配布していたが現在は事業所内ではなくオレンジサロンで開催している。家族全員が委員になっているが、現在は2~3人の参加となっている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問や分からない事など運営推進会議等で確認したり、取り組みについてのアドバイスをもらったり相談したりして取り組んでいる。	行政は毎回必ず運営推進会議には出席しており、事業所の実情や取り組み状況について相談し、アドバイスをもらっている。直近では運営方針、ケアマネ在籍について相談した。話しやすく相談しやすい関係ができています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等は日中常に開いており、身体拘束について全体研修会等で学ぶ事ができ、又、法人全体で標語の募集をして張り出して防止に努めている。	法人で計画的に研修が行われている。3日間、同じ内容で研修を行い、職員全員が必ず出席するようになっている。現在ではレポートでの研修が行われている。また、センサーマット利用者が4名いるが、職員全員で使用開始や解除について利用者本位に検討している	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴・更衣時ボディチェックを行いキズ等あれば記録に残している。又、全体研修会で学び標語を作って張り出して防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体研修会で学ぶ事が出来る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	直接または電話等で不安や疑問に対して説明し理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等で意見を聞き反映させる様努めている。	運営推進会議や面会時、買い物依頼時や病院の受診時、状況報告時など機会をとらえ聴くようにしている。出された意見は全員で話し合い運営に反映させている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや会議等で意見を聞く機会を作っている。	申し送りノートなどで全員の情報共有をしている。管理者が必ずチェックし漏れのないようにしている。職員で話し合い、要求を出したことで最近では浴室の改修及びエアコン取り換えにつながった	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の条件で整備に努めている。又、業務の見直しを現在行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の毎月の研修会は自己学習となりレポートを書いている。又、外での研修機会があれば参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染防止のため今はあまり多くないが研修会などで交流をしてサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前訪問したり訪問してもらったりして要望を確認し訴えを受け止め安心できる様関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や面談申込み時等で要望を確認して対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談で話した事を含め当日に改めて確認して信頼関係に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたみ、自分でダンスになおしたり、食器を片付けたりできる事を行ってもらい関係を気付いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ここ1年出来ていないが面会時の散歩を共にしたり、病院受診を一緒に行ったり、本人の好きな食べ物を家族が持って来て食べてもらったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人施設から入居した方には散歩して馴染みの人と話ができる様支援しているが、その他の方はコロナ対策や重度化のため厳しくなっている。	コロナ禍で外出は控えているが家族とはテラスのガラス戸越しに携帯電話を使ったりと工夫しながら面会を実施し会話を楽しんでもらっている。法人に行くことで、なじみの人と会ったり、掃除に来る人(ファミリーサポート)を通して地域の人との会話を楽しんだり、また、誕生日のプレゼント(花やメッセージ)写真などを通して利用者と共に話題にしている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファーでお互いの思いを話し合ったりお互いの洗濯物をたたんで渡したり交流出来るようにしている。重度の方も孤立しない様自席で会話を聞いたり会話に入れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の施設に住み替えしても本人に会いに行き話をしている。又他施設に住み替えの場合も相談があった時は丁寧に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えや希望を傾聴し把握するためにも個別記録等に書き、思いに寄り添える様努めている。	訴えや気づきは個別の記録にしているが重要ポイントと思われることは別記録で必ず全職員で共有できるよう工夫している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族からの聞き取りを行い、その人らしい生活が出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録や毎日のバイタル測定を行うと共に申し送り等で一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	連絡ノートやモニタリング、会議の中で意見を確認して介護計画を作成している。	連絡ノートや申し送りノート、モニタリング会議及び担当者からの今後の課題などを基に介護計画のひな型を作り、それを基に話し合いを行い、全職員の意見も取り入れて介護計画を作成している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録に記入して特記は日誌に書き職員が必ず目を通せるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠くにいて病院不振が難しかったり、家族が連れて行けない場合は職員が同行している。又、家族の要望でオレンジデイに参加したりした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1年前迄はほぼ毎日ボランティアの方の支援があった。又、オレンジカフェに行き地域の方々からの支援があったが、現在コロナ感染対策のため難しくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や入居前から受診している病院へ家族と共に受診できる様に支援している。	月2回の訪問診療がある。専門医及び他のかかりつけ医は家族同伴で受診、職員も同行する。遠方で家族の対応ができない人は職員が対応し受診後の報告をしている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かおかしいという事を含め、看護師と常に情報交換をしてすぐに対応できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や家族と定期的に連絡を取り情報を集め早期退院が出来る様関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族、かかりつけ医と話し合い関係者と共に方針を共有してチーム全体で取り組んでいる。	重度化や終末期の方針は入居開始時に説明し、話し合いを行い方針の共有をしている。状態変化の都度、家族への説明や話し合いを行いながら法人からの訪問看護との協力関係も構築され、家族と共に終末ケア、看取りを行っている。家族の宿泊の部屋もある	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度はコロナ対策のため消防署でのAED等の訓練は難しかったが、誰でも見れるようマニュアルを置き、時には看護師より指導してもらい学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通して誘導方法を確認したり、運営推進会議で地域の方へ話をしている。	年に2回 地震や火災を想定した避難訓練を実施しており、1回は消防署と法人と合同で行っている。事業所独自に火災訓練は出火場所を変えて利用者と一緒にしている。備蓄も整備されている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	洗濯物たたみが難しくなってきた利用者にもさりげなく他の利用者がたたんでいる所に参加してもらい誇りをなくさない工夫をしたり、トイレの声かけを他の方に分からないよう工夫している。	居室に入る時は必ず声かけをして入室する。今まで出来ていたことができなくなってもプライドを傷つけない関わりを職員全員が意識し、洗濯物たたみ等も簡単なタオルをそっとまわしたり、トイレに長く座るときは膝かけをしたり席を外すなど、チームで誇りやプライバシーを傷つけない関わりをしている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パズルをするのか色塗りをするのかTVのどの番組を見るのか等様々な場面で声だけではなく表情等でも自己決定が出来る様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やシーツ交換など職員側の都合になっている所もあるが、今どこでどうやって過ごしたいのか等本人に尋ねて出来るだけ希望が叶えられる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの物を着てもらったりひげそりを時には自分で行ってもらったり鏡の前で髪をといたりする等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者に委託しているが、本人の嫌いな物は変更してもらい、個々に合わせた食事形態にしている。下膳や食器拭き、テーブル拭き等出来る事は職員と共に行っている。	食事は業者に委託しているが冷めたものは必ず温め直し嫌いな物は変更してもらっている。朝食は事業所内で作っている。事業所内でつぎ分けて配膳をするので利用者は厨房には入らないが、下膳や食器を拭いたりテーブルふきなどできることは一緒に行っている。また要望があればおやつなどを作ることもある	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他職種と話しあい水分量や食べる量、カロリー等を確認している。好きな飲み物をすすめたり、必要であれば栄養補助食品を利用し、個々に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方にはその都度声かけを行い、介助の必要な方にも出来る部分はしてもらい、個々の状態にあった口腔ケア用品を使い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	うまく立てない方でも2人介助でトイレに誘導したり、日中だけでもトイレ介助したり、その方に合わせて失敗がないよう支援している。	おむつでの排泄をできるだけ減らすように支援している。うまく立てない人は2人で介助したり、意思表示のない人は排泄チェック表を基にトイレ誘導を行っている。おむつ使用の人も日中は紙パンツとパットを使用したり、目につく場所にパットを置くようにしたら自分で交換ができるようになったり、1人ひとりに添った自分支援を工夫しながら取り組んでいる	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や水分が不足しないよう飲み物を工夫をしたり、散歩や運動を声かけしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴で時間や曜日は決まっているが、好みの湯温にしたり入浴剤を使ってゆっくり入れるようにしている。	週2回の入浴を基本にしているが、汚染時や希望によって随時に入浴している。嫌がる人には少し時間をおいて、再度声掛けをしたり翌日に変更したりと無理に進めないよう、入浴が心地良いものになるように工夫しながら支援している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋にTVを持たれている方は寝るまで見ていたり、ソファで好きな時に休息できるようにしている。又、側にいて欲しい方には寝るまで付き添うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時に情報共有し、個人ファイルで病歴や服薬情報いつでも見れるようにしている。変更の際にも情報交換し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズルや計算、カレンダーの色塗り等行いたい方には準備し行ってもらったり、洗濯物たたみ等役割が持てる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ感染予防のため希望に沿った外出は難しいが、外を歩きたい方には周辺の散歩をしたり、車椅子の方もデッキで日光浴したり散歩している。	感染予防のために行事や遠出は避けているが、受診のため家族と外出時は外食やミニドライブを楽しむことができる。また、敷地が広く、天気の良い日はデッキでの日光浴やお茶を楽しんだり、外庭で利用者と一緒に焼き芋を作ったり洗濯物を取り入れたり外気に触れる機会を設けている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て財布の中に少額を入れ自分で持っている方や職員が預り買物の希望時には自分で買える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は自由に使ってもらい充電や画面がおかしい時は元に戻す等の支援をしている。他の方も電話の取り次ぎを行い家族等と話せる様支援している。手紙等も読んで聞かせている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	硝子戸や壁等に季節の感じられる物を貼ったり、飾っている。	玄関前にはたくさんの季節の生け花が飾られており、ホールは広々として壁面には利用者と共同で制作した作品が飾られている。自然な採光が差し込む中で利用者はテーブルやソファでそれぞれがゆったりとくつろいでいる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキに長椅子があり室内デッキ側にソファを置きくつろげるようにしている。自由に居たい所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの置物や毛布等を部屋に置いたり使ったり家族写真やぬいぐるみなど飾りくつろげる様に工夫している。	居室は広く、夜間トイレ移動をしやすいようにベッドや家具の配置をそれぞれの個性や使いやすさに合わせて工夫している。家族写真や馴染みのテーブルなどがあり、居心地の良さや安全性を考慮した設えになっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングのテーブルや椅子の位置、部屋でのベッドの位置等を個々に合わせ分かりやすく、又動き易いように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600719		
法人名	医療法人 ニコニコ診療所		
事業所名	グループホームおさかの里 つつじ館		
所在地	大分県豊後大野市三重町小坂4194-9		
自己評価作成日	令和3年1月15日	評価結果市町村受理日	令和3年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・医療と介護の連携が取れており、適切な医療が素早く受けられる。 ・口腔体操や簡単な体操を行いそれぞれの残存能力を活かした取り組みを行っている。 ・国家資格を持っているスタッフが多い。 ・ここ1年は難しいが、月1~2回のオレンジカフェに参加し地域との交流や気分転換の機会を設けている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホームおさかの里 さくら館に記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	数ヶ所に理念やモットーを掲示し毎日の朝礼で唱和して実践につなげられる様になっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	この1年はコロナ対策のため地域との交流は難しいがオレンジカフェを通して地域の方との交流を行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での健康教室や運営推進会議に資料を入れたり、ボランティア・サロンに来られた方に話をしたりして活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実践について報告しヒヤリハット等でのアドバイスを活かしていけるように取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問や分からない事など運営推進会議等で確認したり、取り組みについてのアドバイスをもらったり相談したりして取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等は日中常に開いており、身体拘束について全体研修会等で学ぶ事ができ、又、法人全体で標語の募集をして張り出して防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴・更衣時ボディチェックを行いキズ等あれば記録に残している。又、全体研修会で学び標語を作って張り出して防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体研修会で学ぶ事が出来る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	直接または電話等で不安や疑問に対して説明し理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等で意見を聞き反映させる様努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや会議等で意見を聞く機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の条件で整備に努めている。又、業務の見直しを現在行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の毎月の研修会は自己学習となりレポートを書いている。又、外での研修機会があれば参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染防止のため今はあまり多くないが研修会などで交流をしてサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前訪問したり訪問してもらったりして要望を確認し訴えを受け止め安心できる様関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や面談申込み時等で要望を確認して対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談で話した事を含め当日に改めて確認して信頼関係に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたみ、自分でダンスになおしたり、食器を片付けたりできる事を行ってもらい関係を気付いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ここ1年出来ていないが面会時の散歩を共にしたり、病院受診を一緒に行ったり、本人の好きな食べ物を家族が持って来て食べてもらったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人施設から入居した方には散歩して馴染みの人と話ができる様支援しているが、その他の方はコロナ対策や重度化のため厳しくなっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファでお互いの思いを話し合ったりお互いの洗濯物をたたんで渡したり交流出来るようにしている。重度の方も孤立しない様自席で会話を聞いたり会話に入れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の施設に住み替えしても本人に会いに行き話をしている。又他施設に住み替えの場合も相談があった時は丁寧に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えや希望を傾聴し把握するためにも個別記録等にも書き、思いに寄り添える様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族からの聞き取りを行い、その人らしい生活が出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録や毎日のバイタル測定を行うと共に申し送り等で一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	連絡ノートやモニタリング、会議の中で意見を確認して介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録に記入して特記は日誌に書き職員が必ず目を通せるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠くにいて病院不振が難しかったり、家族が連れて行けない場合は職員が同行している。又、家族の要望でオレンジデイに参加したりした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1年前迄はほぼ毎日ボランティアの方の支援があった。又、オレンジカフェに行き地域の方々からの支援があったが、現在コロナ感染対策のため難しくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や入居前から受診している病院へ家族と共に受診できる様に支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かおかしいという事を含め、看護師と常に情報交換をしてすぐに対応できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や家族と定期的に連絡を取り情報を集め早期退院が出来る様関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族、かかりつけ医と話し合い関係者と共に方針を共有してチーム全体で取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度はコロナ対策のため消防署でのAED等の訓練は難しかったが、誰でも見れるようマニュアルを置き、時には看護師より指導してもらい学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通して誘導方法を確認したり、運営推進会議で地域の方へ話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	洗濯物たたみが難しくなってきた利用者にもさりげなく他の利用者がたたんでいる所に参加してもらい誇りをなくさない工夫をしたり、トイレの声かけを他の方に分からないよう工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パズルをするのか色塗りをするのかTVのどの番組を見るのか等様々な場面で声だけではなく表情等でも自己決定が出来る様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やシーツ交換など職員側の都合になっている所もあるが、今どこでどうやって過ごしたいのか等本人に尋ねて出来るだけ希望が叶えられる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの物を着てもらったりひげそりを時には自分で行ってもらったり鏡の前で髪をといたりする等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者に委託しているが、本人の嫌いな物は変更してもらい、個々に合わせた食事形態にしている。下膳や食器拭き、テーブル拭き等出来る事は職員と共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他職種と話しあい水分量や食べる量、カロリー等を確認している。好きな飲み物をすすめたり、必要であれば栄養補助食品を利用し、個々に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方にはその都度声かけを行い、介助の必要な方にも出来る部分はしてもらい、個々の状態にあった口腔ケア用品を使い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	うまく立てない方でも2人介助でトイレに誘導したり、日中だけでもトイレ介助したり、その方に合わせて失敗がないよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や水分が不足しないよう飲み物を工夫をしたり、散歩や運動を声かけしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴で時間や曜日は決まっているが、好みの湯温にしたり入浴剤を使ってゆっくり入れるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋にTVを持たれている方は寝るまで見ていたり、ソファで好きな時に休息できるようにしている。又、側にいて欲しい方には寝るまで付き添うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時に情報共有し、個人ファイルで病歴や服薬情報いつでも見れるようにしている。変更の際にも情報交換し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズルや計算、カレンダーの色塗り等行いたい方には準備し行ってもらったり、洗濯物たたみ等役割が持てる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ感染予防のため希望に沿った外出は難しいが、外を歩きたい方には周辺の散歩をしたり、車椅子の方もデッキで日光浴したり散歩している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て財布の中に少額を入れ自分で持っている方や職員が預り買物の希望時には自分で買える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は自由に使ってもらい充電や画面がおかしい時は元に戻す等の支援をしている。他の方も電話の取り次ぎを行い家族等と話せる様支援している。手紙等も読んで聞かせている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	硝子戸や壁等に季節の感じられる物を貼ったり、飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキに長椅子があり室内デッキ側にソファを置きくつろげるようにしている。自由に居たい所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの置物や毛布等を部屋に置いたり使ったり家族写真やぬいぐるみなど飾りくつろげる様に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングのテーブルや椅子の位置、部屋でのベッドの位置等を個々に合わせ分かりやすく、又動き易いように工夫している。		